

## 1 法人の概要

### 1) 沿革

昭和15年	12月28日	財団法人村上学園設置認可
16年	4月1日	布施高等女学校開校
22年	4月1日	布施高等女学校附属中学校開校
23年	4月1日	新制高校の発足により布施学院高等学校と改称
24年	2月15日	布施女子高等学校、同中学校と改称
26年	3月13日	財団法人村上学園は学校法人村上学園となる
28年	4月22日	学校法人村上学園布施女子高等学校附属幼稚園開園
38年	4月1日	学校法人村上学園柏原女子高等学校開校
39年	1月25日	学校法人村上学園柏原高等学校と校名変更、男子部を併設
40年	1月25日	布施女子短期大学（42年4月、東大阪短期大学と校名変更） 家政科設置認可を得、開学
41年	1月25日	布施女子短期大学保育科を増設
43年	4月1日	家政科を家政学専攻と食物栄養学専攻に分離認可
44年	4月1日	保育科を幼児教育学科に改称（47年3月廃止）
45年	2月9日	児童教育学科設置認可を得、同年4月1日開設
45年	4月1日	家政学専攻を服飾デザイン専攻に改称 柏原高等学校、女子部を廃止
48年	4月1日	児童教育学科を初等教育学と幼児教育学に専攻分離
63年	3月31日	東大阪中学校廃校認可を得、廃校
平成11年	7月28日	児童教育学科の初等教育学専攻の募集停止届出
12年	3月1日	家政学科に生活福祉専攻設置認可を得、同年4月1日開設
13年	3月31日	児童教育学科の初等教育学専攻廃止届出
13年	5月15日	校名変更認可、平成14年4月から東大阪高等学校を敬愛女子 高等学校と改称
14年	4月1日	児童教育学科を幼児教育学科に、服飾デザイン専攻を生活デザ イン専攻に名称変更
14年	12月19日	東大阪大学設置認可、平成15年4月1日開学 校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学を東大阪大 学短期大学部と改称
15年	1月24日	校名変更認可、平成15年4月から東大阪短期大学附属幼稚園 を東大阪大学附属幼稚園と改称
15年	4月1日	東大阪大学こども学部こども学科開学
18年	4月1日	敬愛女子高等学校を東大阪大学敬愛高等学校に名称変更 柏原高等学校を東大阪大学柏原高等学校に名称変更 東大阪大学短期大学部家政学科を健康福祉学科に、食物栄養学 専攻を健康栄養専攻に名称変更 家政学科生活デザイン専攻を平成18年度より募集停止
19年	3月31日	家政学科生活デザイン専攻廃止届出
22年	3月31日	東大阪大学敬愛高等学校商業科廃止
22年	4月1日	健康福祉学科を健康栄養学科に名称変更 健康栄養学科生活福祉専攻を平成22年度より募集停止
23年	3月31日	健康栄養学科生活福祉専攻廃止
23年	4月1日	東大阪大学こども学部アジアこども学科開設
28年	4月1日	東大阪大学短期大学部健康栄養学科を実践食物学科に、幼児教 育学科を実践保育学科に名称変更
30年	4月1日	東大阪大学短期大学部介護福祉学科開設



## 2 平成30年度事業計画における進捗状況等

平成30年度は、本校の教育活動をより多くの方々を知っていただき、本校のイメージアップにつながるような事業展開を心掛けてきた。そのために、柏原市や八尾市・松原市・藤井寺市といった地元を中心に、地域への貢献や情報発信をていねいに行った。その結果、徐々にではあるが、「柏高」に対する認識の変化を感じられるようになってきている。また、芝生の広々とした前庭や新しい制服も好感を醸成する一因となっている。

### 1. 教科指導法の研究・実践と基礎学力の向上

#### (1) 教員の授業力向上に向けた授業研究の推進

本校生徒の課題でもある基礎学力の向上や自分の考えをまとめて発表・表現する力を育成することが、生徒のキャリアを保障する上での懸案事項となっている。アクティブラーニングに続き、主体的・対話的な深い学び等、言葉だけが先行している感は否めないが、これらの考え方がこれからの社会を生きていくためには必要不可欠なことも事実である。



本校の生徒に応じた指導(わかる授業・興味関心を引き出す授業)方法を研究し、実践するために、平成26年度より継続している全教科(8教科8名)の研究授業と授業の公開(全教員)を10月下旬の1週間実施した。プロジェクターを利用

した授業展開は普通となり、グループ学習的要素を取り入れたワールド・カフェ等新しい試みも見られるようになった。また、教員には「これらの授業が研究授業だけのためではない」という意識が感じられた。

8月には教員自らがプロGRESS学習(アクティブラーニング型の講演研修)を体験し、「正解のない時代に求められる、自分の選んだ道を正解にしていく力」について考えた。

#### (2) 基礎学力の向上と定着

基礎学力の向上は本校生徒にとって最も大きな課題である。アドバンストコースではほとんどの科目で習熟度別授業を実施、他のコースでも国語教養・数学教養・社会教養等を並列選択させ、少人数でも授業を開講しきめの細やかな授業の推進に努めた。積極的に選択した生徒のモチベーションは向上しているが、学力の向上・定着には至っていないため、さらなる工夫が必要である。

学校設定科目「キャリア」で取り組んでいる基礎学力向上に受けた実践は「SPI」の導入等で軌道に乗りつつある。

本年度も保護者参観を5月(前年度アンケートから実施月を決定)に実施した。教員も生徒も程よく緊張する機会としても効果的であるように感じる。40人の保護者が来校し、内1年が29人であり、入学後の様子が気になる保護者の心理が読み取れる。

#### (3) 選択科目系列の発展的解消

2019年度から調理系列とアニメ・イラスト系列は、それぞれ調理コース・美術コースとコース化した。これら二つの系列は生徒希望調査で常に定員があふれるニーズの高い系列であり、その受講生の半数以上がそれぞれの系列で学んだことを活かす進路決定をしている。



しかし、中3生の受験高校決定過程の中で保護者の意見がどのように作用するのか予想しにくい要因もあり(受験生のニーズはかなりあることが中学との情報交換の中で判明していた)、生徒募集に向けては新コースの周知に労力を注いだ。実際のところ、初年度はそれぞれ一桁の入学生で合併クラスの在籍が



20人以下も覚悟していた。＊結果は後述の5. 入試結果を参照

## 2. 生活指導の徹底と生徒活動の充実

(1) 挨拶・身だしなみ・時間厳守等「凡事徹底」を図るための教員の一致した指導

挨拶・身だしなみ等の「凡事徹底」については、重要な教育活動の一つである。制服の改定時にはネクタイの着用賛否両論があったが、「だらしなくネクタイを緩めている」等大きな乱れは見受けられない。2019年度より全生徒がネクタイ着用となるので、これからが正念場となる。

また、従来から、スポーツコースを中心とした本校生の挨拶には定評があるが、校内だけに限る場合が多く、校外での適切な挨拶と行動をどのような形で進めていくかを検討する時期にきていると感じる。年2回日本拳法部が協力しているJR柏原駅前でのティッシュ配付(交通安全週間の取組)時には元気な声で挨拶をしており、市民の方からお褒めの言葉をいただいた。

(2) 「教育コーチング」のスキルを踏まえて粘り強い指導と実態に応じた柔軟な生活指導

ときには起きる生徒の問題行動に対しては、毅然とした態度で対応し、保護者への働きかけで理解を引き出した。平成30年度は中途退学・進路変更の減少に向けて、慣例則的な懲戒処分の見直しを図った。

指導案件(校長訓戒以上)

	第1学年	第2学年	第3学年	合計
平成29年度	27	25	16	68
平成30年度	24	10	23	57

最近、学年が上がっても案件数は極端には減らない傾向がある。第1学年では案件数の3分の1以上が携帯電話、SNS関連のものであり、これに関しては第2学年から「0」に近づいた。

(3) 生徒会活動の充実を通して、生徒の主体的活動の育成

生徒会役員の公約でもあった「校内への携帯電話等持込許可」の動きが活発化した。大阪北部地震や台風21号による休校等、緊急連絡時の携帯電話の利便性が再確認されたのも大きな後押しとなった感がある。文部科学省の指針変更を背景に、生徒アンケートや生徒指導部との話し合い・校長との面談等意欲的に活動した。「校内への携帯電話等持込」については、現在「許可」の方向で検討している。

柏原市政60周年記念事業には、生徒会や各部活動が積極的に参加した。

## 3. 生徒支援、教育相談活動の充実

(1) 気になる生徒の実態把握及び家庭と連携した不登校や中途退学の防止等

高校生活カード等による情報収集は本取組の発端に過ぎないことを肝に銘じ、保護者との面談により、本人や家族の「困り感」に寄り添うサポートを教員は心掛けている。心的要因によると思われる不登校で中途退学(全員が通信制へ転学)した生徒は1年で2人(いずれも中学時代に不登校を経験)、他学年では「0」。不登校を認定し、特別措置を取った生徒5人(いずれもアシストコース、2年1人、1年4人)は全員進級した。



平成30年度は私学人権教育研究会の研修会で生徒サポート部主任が本校の生徒支援について実践報告をした。家庭訪問回数の多さには、参加者全員一様に驚いていたようだ。

(2) 情報共有化による効果的な教育相談の充実

SC(スクールカウンセラー)の利用状況:

相談案件75件(1年67件、2年5件、3年2件、その他1件)

相談者内訳(生徒68件、保護者21件、教職員38件、その他1件)



相談については不登校が最も多く、中学での不登校が入試・入学という目前の状況で一時的に改善されたが、根本的な解決や改善がないまま再び不登校に陥ってしまうケースがほとんど。その次が発達障害。そして発達障害の特性がベースにあって、その延長上にストレスをため込んでいう問題行動へとつながっていることがSCから指摘された。

生徒サポート部主任が窓口となり、SCと担任との情報交換の場がスムーズに持てるようになってきたところだが、学年及び教職員全体での連携・情報の共有がしやすくなるような体制作りをさらに培っていくことが重要である。

#### 4. 進路指導の充実と進学実績の向上

##### (1) 多様な進路(就職・専門学校・大学等)への柔軟な対応

進学実績を高めるために、2・3年の総合的な学習の時間「進路研究」を活用し、進路指導主導の時間(進路別見学会・探求型進路ガイダンス・職種から考える進学・入試制度の研究等)を定期的に確保した。大学進学希望生の多くは検定系列を受講し、漢字検定・数学検定・英語検定・ニュース検定等の受験でモチベーションを向上させた。また、アニメ・イラスト系列及び美術部からは、今年度も5人の芸大合格者を輩出した。

#### 5 4期生進路状況

就 職			進 学			そ の 他	
学校紹介	公務員	縁故自営	大 学	短期大学	専門学校	高職技専	進学準備
48	2	17	121	2	52	7	10

主な就職先：トヨタ自動車株式会社・新日鐵住金株式会社(3人)・阪急電鉄株式会社(2人)  
山崎製パン株式会社・日本郵便株式会社近畿支部・山九株式会社他

主な進学先：近畿大学・龍谷大学・京都産業大学・法政大学・中央大学・専修大学・東京工芸大学他

年度当初に「東大阪大学見学会」の実施等で、留学生を含め大学10人、短期大学部1人が内部推薦入学(4年間で最大217万円免除の特典付)となった。

#### 5. 効果的な広報活動と生徒募集活動の推進

生徒数の確保については、私立公立を問わず全高等学校が頭を悩ませている問題である。2019年度入試では専願の受験生が増加した分、併願が減少した。しかし、専願生の増加は入学生の増加に直結するため最重要課題である。

##### 2019年度 入試結果

コース	アドバンスト	調理	美術	キャリアアップ	キャリアアシスト	スポーツ	計
入学者	19	15	13	57	28	95	227

##### (1) 柏高のイメージアップ

本来1番大きな受け皿でなくてはならないキャリアアップコースの入学生徒数を増やすためには、

柏高に対するイメージアップが急務である。以下の企画やイベントへの参加が柏高のイメージ改善につながるよう努めた。

地元柏原市教育委員会とも連携協定を締結し、具体的な動きとして柏原市政60周年記念事業には生徒たちを積極的に参加させた。

台風による荒天で中止となった夏休みこども体験教室は、周年行事との連携開催であったペットボトルロケット製作教室を別日に単独実施した。当日作ったロケットは9月に大和川河川敷で開催された柏原市政60周年記念こどもフェスティバルのイベントの一つとして大空に発射される予定であったが、台風接近による大雨のため中止された。同日夜の部は開催され、市役所駐車場にステージと



大きなスクリーン(スターナイトシアター用)が設置され、本校は夜店(消しゴムすくい)を出店した。

柏原市教育委員会後援の教育フォーラム2018では、大阪芸術大学教授、キャラクター造形学科長である漫画家の里中満智子先生と大阪あべの辻調理師専門学校日本料理教授である本校卒業生(23期生)の中村泰弘先生を迎えて教育講演会を開催した。調理系列、アニメ・イラスト系列の生徒たちも質疑応答に参加し、受験生とその保護者、中学校や塾関係者、地域の方にも新コースについて紹介ができた。



3年前から本校が会場を提供している「あつまれ元気っ子サマースクール」(柏原市立小中学校教員有志とPTA役員による運営)では、小学生たちの楽しそうな声が3日間校舎内に響いていた。開会式・閉会式(会場は食堂)には本校管理職も参加して、子どもたちを送迎してきた保護者の方にも挨拶ができた。この子どもたちが将来高校受験を考えるとときに柏高を選択肢の一つとしてくれることを期待している。

さらに、この企画がきっかけで知り合った中学校の先生方のフットサル大会が、本校人工芝多目的コートで毎年春休みに開催されている。公立中学の教員が自分たちの活動の場として柏高に足を運んでくれる、この縁を大切にしたい。

また、パラアーチェリーで東京パラリンピックへの出場を目指している柏原市役所女性職員の練習場所を本校敷地内に設置した。手作り感満載の設備ではあるが、3月にはフィギュアスケーターの浅田真央さんが取材に訪れ、5月にNHKBS1で放送された。



## (2) 入試広報部の充実

### 「真央が行く」撮影風景

五ツ木書房(年2回模擬試験会場を提供)や(株)大阪進研の力を借りて、年度ごとの入試を本校向けに分析してもらった。本校受験生の公立併願校の多くが定員割れする中で、今後どのような戦術で募集を仕掛けていくのかをデータをもとに構築しなければならない。

## 6. 各コースの取組みから

### (1) アドバンストコース

在籍生徒の学力向上と希望受験方法に細かく対応するため、2年次からは原クラスを習熟度や文系理系、さらに受験科目ごとのクラスに編成し授業を進めた。生徒が進学を希望している大学へのキャンパス・ツアーも例年通り実施した。3年次では指定校推薦入試も視野に入れてはいるが、公募推薦やAO入試、一般入試の各方式を研究させて、自分に1番有利な方式で受験する機会を増やした。結果、法政大・中央大・京都産業大・追手門学院大・桃山学院大・佛教大等に合格した。



### (2) キャリアアップコース

自己肯定感の育成や学習意欲の向上に努めた。8つの選択系列により興味関心を引き出し、大学や専門学校との連携で専門的な知識も含め、自己のキャリアについて考えさせた。全コースの中で最もバリエーション豊富な進路決定をしているコースであり、漢検2級・英検準1級・数検2級・簿記1級などに挑戦する生徒もおり、意欲的に学習する場面も多くみられるようになった。次年度に向けて、選択科目「キャリア」で取り組んでいる基礎学力の向上を課題としたい。指定校推薦が中心ではあるが、東大阪大・追手門学院大・四天王寺大・帝塚山大・大阪商業大・帝塚山学院大・大阪学院大・大阪産業大・大阪芸術大・阪南大等に37人が進学した。

### (3) キャリアアシストコース

放課後デイサービスやこども家庭センターとも連携しながら、生徒一人一人の課題に寄り添った。中学時代に不登校を経験した生徒の中には、その影響もありコミュニケーションの苦手な生徒が多い。授業でもあえて発表の機会を頻繁に与え、グループ学習等でコミュニケーションの場面を設定した。学校説明会へのボランティア参加や生徒会活動への参加、さらに生徒会役員への立候補など活躍の領域を広げた生徒も現れ、今後のコース生の励みとなった。

また、中学で遅れを取り戻すため懸命に学習した生徒は、四天王寺大・大阪商業大・大阪芸術大等に進学を決めた。

社会に出るために、もう少し時間を必要とする生徒は、職業技術専門校や職業能力開発校など関係外部組織と密に連携しながら進路決定した。

### (4) スポーツコース

強化部・準強化部に在籍する生徒のコースとして、文武両道、競技実績の向上をめざして、連日連夜ほとんど休みのない状況の中で活動を展開した。なかでも、バドミントン部・空手道部・陸上競技部・柔道部・ゴルフ部は全国大会で活躍した。進学面では、東大阪大・近畿大・追手門学院大・四天王寺大・上武大・大正大・大阪商業大・大阪学院大・大阪産業大・大阪電通大等、多数の大学に合格。就職面では、トヨタ自動車・新日鐵住金・山崎製パン等の有名企業で内定を勝ち取った。

## 3 財務の概要

別添 平成30年度	資金収支計算書	
	事業活動収支計算書	
	貸借対照表	
	財産目録	
	監査報告書	参照